

平成28年5月 東京地区百貨店売上高概況

平成28年6月20日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 245億円余
2. 前年同月比	-4.5% (3か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-5.1%(89.8%) : 非店頭1.5%(10.2%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成28年4月対比±0店)
5. 総店舗面積	882,870㎡ (前年同月比: 3.1%)
6. 総従業員数	19,131人 (前年同月比: -1.0%)
7. 3か月移動平均値	10-12月 3.0%、11-1月 1.0%、12-2月 1.7%、 1-3月 0.5%、2-4月 -0.1%、3-5月 -2.3%

[参考] 平成27年5月の売上高増減率は11.6%

【特徴】

- (1) 5月の総額は4.5%減で3か月連続のマイナス。入店客数は0.7%減。月前半(GW期間中)は各社の展開した催事やイベントが奏功し好調に推移したが、後半にかけて売上・入店客数ともに失速した。
- (2) 商品別では全国同様、雑貨が1.5%増と14か月連続でプラスを確保したものの、衣料品、身のまわり品、家庭用品が伸び悩む。土曜日一日減の影響もあり食料品も前年に届かず。不振が続く衣料品対策として、各社ともPB(プライベート・ブランド)の強化や、フロア構成・MDバランスの見直しなどに取り組むがまだ効果は限定的。
- (3) 細分類では、化粧品が国内・インバウンド問わず好調で13.5%増の14か月連続プラス。また、惣菜も0.3%増となった。個別商材ではブラウスなどに併せてパンツが堅調のほか、季節商材としてサングラスや帽子、レインシューズなどに動きが見られたが、日傘の動きが鈍かった。また、母の日ギフトは平年並みで推移。商材ではエプロンやハンカチなどのほか高額な弁当に人気が集まったが、全体的に単価が下落傾向との報告。
- (4) 各社とも物販・文化催事が集客に貢献。特に顧客ターゲットを絞った催事に人気が集まったほか、各店の熊本復興イベントは「消費による支援」の意識から賑わいを見せた。
- (5) 6月は15日現在約3%強のマイナスで推移。中元は各社とも前年並みのスタート、店頭受注は微減傾向にあるが、売上の約1割を占めるインターネット受注が2桁増と好調。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
①増加した: 3店、②変化なし: 3店、③減少した: 12店
- (3) 5月歳時記(GW、母の日)の売上 (同上/有効回答数11店舗)
①増加した: 2店、②変化なし: 5店、③減少した: 4店

東京地区百貨店 売上高速報 2016年05月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	124,537,262	100.0	-4.5
紳士服・洋品	12,087,248	9.7	-4.0
婦人服・洋品	22,972,829	18.4	-8.8
子供服・洋品	2,631,269	2.1	-2.1
その他衣料品	2,343,555	1.9	-7.3
衣 料 品	40,034,901	32.1	-6.9
身のまわり品	18,683,664	15.0	-6.8
化粧品	10,795,987	8.7	13.5
美術・宝飾・貴金属	8,176,021	6.6	-7.4
その他雑貨	5,570,645	4.5	-4.5
雑 貨	24,542,653	19.7	1.5
家 具	1,319,191	1.1	-15.7
家 電	775,845	0.6	-7.8
その他家庭用品	4,339,185	3.5	-10.1
家 庭 用 品	6,434,221	5.2	-11.0
生 鮮 食 品	4,398,518	3.5	-4.5
菓 子	7,135,142	5.7	-0.6
惣 菜	6,441,554	5.2	0.3
その他食料品	7,988,743	6.4	-6.8
食 料 品	25,963,957	20.8	-3.1
食 堂 喫 茶	3,140,826	2.5	-5.3
サ ー ビ ス	2,203,662	1.8	-15.7
そ の 他	3,533,378	2.8	11.0

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率 (%)
商 品 券	2,189,433 千円	-8.5
従 業 員 数	19,131 人	-1.0
店 舗 面 積	882,870 m ²	3.1
営 業 日 数	31.0 日	前年 31.0 日

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、雑貨が14か月連続のプラスとなった。また、衣料品が7か月連続、身のまわり品が4か月連続、家庭用品が2か月連続、食料品が9か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が14か月連続、惣菜が4か月連続のプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-4.5	—	3か月連続マイナス
紳士服・洋品	-4.0	-0.4	3か月連続マイナス
婦人服・洋品	-8.8	-1.7	7か月連続マイナス
子供服・洋品	-2.1	0.0	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-7.3	-0.1	2か月ぶりマイナス
衣料品	-6.9	-2.3	7か月連続マイナス
身のまわり品	-6.8	-1.1	4か月連続マイナス
化粧品	13.5	1.0	14か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-7.4	-0.5	3か月連続マイナス*
その他雑貨	-4.5	-0.2	10か月連続マイナス*
雑貨	1.5	0.3	14か月連続プラス
家具	-15.7	-0.2	2か月連続マイナス
家電	-7.8	-0.1	2か月連続マイナス
その他家庭用品	-10.1	-0.4	6か月ぶりマイナス
家庭用品	-11.0	-0.6	2か月連続マイナス
生鮮食品	-4.5	-0.2	3か月連続マイナス*
菓子	-0.6	0.0	9か月ぶりマイナス*
惣菜	0.3	0.0	4か月連続プラス*
その他食料品	-6.8	-0.4	9か月ぶりマイナス*
食料品	-3.1	-0.6	9か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-5.3	-0.1	5か月連続マイナス
サービス	-15.7	-0.3	11か月連続マイナス
その他	11.0	0.3	10か月連続プラス
商品券	-8.5	-0.2	15か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>